

2024 年度  
**第 27 期大阪精神分析セミナー【系統講義】のご案内**  
— 精神療法家・心理療法家のためのセミナー —

当セミナーでは 4 年を 1 クールとしてプログラムを組み立てており、2024 年 9 月にはその 4 年目が始まります。これまで、1 年目では精神分析の礎であるフロイトの理論を学び、2 年目では各学派の理論について理解を深め、3 年目では設定・アセスメントから終結に至るまでの理論的背景を学びました。4 年目となる第 27 期では、「精神分析と精神医学、そして他領域との交差」を年間テーマとして、主に精神疾患を精神分析的に理解することを目指し、以下のプログラムを用意しました。医療現場で臨床を行っておられる方はもちろん、精神医学の領野を精神分析的視点から深く体系的に眺めていくことに関心をお持ちの方はどなたでも、是非ご参加をご検討ください。もちろん単年で受講していただくことも可能です。なお、第 27 期は引き続きオンラインにて講義を実施いたします。加えて、同日の午後に大阪市内の会場にて症例検討会を行う予定です。午後の症例検討会にご参加予定の方に限り、午前の講義を会場でお聞きいただくことも可能です。

2024 年 5 月吉日

主 催：大阪精神療法・心理療法研究会  
代 表：横井公一  
運営委員：片山貴美子・川野由子・宿谷仁美  
清野百合・増尾徳行  
運営顧問：大矢 大・鈴木千枝子・館 直彦  
手塚千恵子

お問い合わせ：大阪精神分析セミナー 事務局

osaka.psy.an.seminar@gmail.com

受講申し込み：<https://www.oskps.com>



ホームページ

## 2024年度 第27期 【系統講義】詳細

### プログラム

年間テーマ：精神分析と精神医学、そして他領域との交差

日程	講師	講義テーマ	
第1回	9月22日	横井公一先生	解離とヒステリー
第2回	10月27日	古賀靖彦先生	強迫
第3回	12月8日	館直彦先生	抑うつ
第4回	1月19日	清野百合先生	精神病
第5回	2月23日	鈴木智美先生	パーソナリティ障害
第6回	3月23日	増尾徳行先生	パラノイアと狂気
第7回	4月20日	飛谷渉先生	摂食障害
第8回	5月18日	高野晶先生	心身症
第9回	6月22日	木部則雄先生	発達障害
第10回	7月20日	松木邦裕先生	サイコセラピーの目指すものと倫理

### 各講義概要・参考図書

第1回 横井公一先生（微風会 浜寺病院）

1895年の『ヒステリー研究』では「性的誘惑」に起因するとされた「ヒステリー」という疾患は、1897年のフロイト自身の転向により欲動論に従って再構成された。そして1980年のDSM-Ⅲに至ると「ヒステリー」という病態は身体表現性障害と解離性障害に解体され、さらには外傷理論の影響の下に解離性障害の理解についてのパラダイムシフトが生じた。本講義では「誘惑から欲動へ、そして外傷へ」という病因論の変化と、それが精神分析の技法に及ぼした影響について考察してみたい。

#### 【参考図書】

- ・フロイト（1895）：ヒステリー研究．岩波書店など
- ・J. M. グッドウィン編（1997）：心的外傷の再発見．岩崎学術出版社

第2回 古賀靖彦先生（油山病院）

本講義では、まず、フロイトが定義した「強迫神経症」、およびフロイトの症例「ねずみ男」について述べます。それから、現代精神医学で定義される「強迫症（OCD：Obsessive-Compulsive Disorder）」と「強迫性パーソナリティ障害（OCPD）」の症状と兆候、診断、治療について概説します。時間が許せば、1980年代から精神医学で使われるようになった操作的診断の功罪にも触れたいと思います。

#### 【参考図書】

- ・フロイト・S (1909) : 強迫神経症の一症例についての覚書. 藤山直樹編・監訳 (2017) 『フロイト症例論集 2』 岩崎学術出版社
- ・高橋三郎、大野裕監訳 (2014) : DSM-V 精神疾患の分類と診断の手引. 医学書院
- ・岩崎徹也 (2011) : 精神分析学から見た操作的診断の功罪、『特集 DSM 診断体系の功罪 精神療法 Vol.37 No.5』

#### 第3回 館直彦先生 (たちメンタルクリニック)

---

抑うつはありふれたものであるが、実は手強いものであり、その中でも「死にたい」「消えてしまいたい」といった訴えが厄介であることはどんな臨床家でも経験していることであろう。このセミナーでは、Freudのテキストの再読から出発し、抑うつとナルシズムが深くかかわりあっていることを踏まえた上で、生と死の欲動二元論の観点から、ナルシズムの理解を深めることを通して、こうした患者の理解とアプローチについて論じていきたい。

#### 【参考図書】

- ・Freud (1914) : ナルシズム導入のために (ナルシズム入門)
- ・Freud (1917) : 悲哀とメランコリー
- ・Sodré, I (2005) : The wound, the bow and the shadow of the object. Note's on Freud's 'Mourning and Melancholia' in Perelberg (ed): Freud A Modern Reader
- ・Green, A (2002) : A Dual Conception of Narcissism Psychoanal Q 71:631-49

#### 第4回 清野百合先生 (勝田クリニック/さくら精神分析研究室)

---

フロイトは精神病患者を精神分析の対象外としました。一方クラインが妄想分裂ポジションや投影同一化などの概念を導入して以降、スィーガル、ローゼンフェルド、ビオンらクラインの弟子たちは、精神病患者に対する精神分析を行い、その臨床的知見から新たな理論を構築していきました。本講義では、ビオンの理論を中心に、精神病に対する精神分析的な理解を深めていきたいと思えます。

#### 【参考図書】

- ・ビオン W.R.著(2013) : 再考 : 精神病の精神分析理論. 松木邦裕監訳、中川慎一郎訳. 金剛出版
- ・ヴェルモート R.著 (2023) : リーディング・ビオン. 松木邦裕監訳、清野百合訳. 金剛出版

#### 第5回 鈴木智美先生 (精神分析キャビネ)

---

パーソナリティ障害者は、そのところに非神経症構造を持ち、考えるのではなく行動することによって、その葛藤や苦痛感をところから排泄する病理をもっています。分析臨床においては、陰性治療反応や治療の行き詰まりがしばしば生じ、治療者は彼らのふるまいに戸惑い、振り回されるゆえ、逆転移のモニタリングが必須になります。学派によってその技法論が大きく異なることも、彼らとの治療の困難

さを表してもいるでしょう。しかしながら、彼らとの交流は、ひとのこころの深淵に触れる時間となりえもします。そのこころの在り方について学ぶ時間としたいと思います。

【参考図書】

- ・松木邦裕（2021）：「パーソナリティ障害」の疾病論と治療概説（古賀靖彦編集代表）精神分析基礎講座．金剛出版
- ・松木邦裕、福井敏編（2009）：パーソナリティ障害の精神分析的アプローチ．金剛出版

第6回 増尾徳行先生（ひょうごこころの医療センター）

---

精神医学の現場・心理療法の現場で議論をすとしても、精神病、パラノイア、狂気、そして統合失調症の区別は、あまりついていない印象を覚える。それには歴史的・文化的文脈があつてのことだろう。ただ精神分析の文脈でパラノイアと狂気をとりあげるとき、それは特有の色彩を帯びる。むしろ治療的接近という取り組みも数多くあるのだが、ある種創造性と結びつく思考を導くものもある。精神医学的な思考とは区別されるものとして、パラノイアと狂気についてとりあげてみたい。

【参考図書】

- ・フーコー,M. (1961/2020)：狂気の歴史．新潮社
- ・ウィニコット,D.W. (1971/2015)：遊ぶことと現実．岩崎学術出版社

第7回 飛谷 渉先生（大阪教育大学）

---

摂食障害は拒食症であれ過食症であれ、身体と性を舞台とした重い「心の病」です。生命危機に陥った低体重の患者を前にすると、臨床家はしばしばそのことに気づきません。内科的治療や行動療法によって生命危機が和らいでも、心の治療がなされないなら多くの場合再発します。本講では、摂食障害患者の心のあり方、特に「内的な性的両親」の万能的コントロールを伴う悪性の強迫状態についての理解を提示し、心理療法によるアプローチの方法を解説します。

【参考図書】

- ・Lawrence,M. (2008)：The Anorexic Mind.Karnac,London.（「拒食症の心的世界（仮題）」（訳）北岡征毅、（解題）飛谷渉 金剛出版 2024 邦訳出版予定）
- ・飛谷 渉（2021）：エディプス・マターズ——現代クライン派臨床理論から考える心のインフラ.思想 1168,岩波書店,東京,pp95-117

第8回 高野 晶先生（北参道こころの診療所）

---

精神分析の理論が身体をとらえる時、心身症がまずその焦点となることは言うまでもないものの、精神療法的に取り扱われるケースはあまり多くありません。しかし心と身体の関係はより多彩で臨床に偏在しています。身体化、身体疾患、自殺など、身体のからむ臨床上の問題を精神分析の理論というツールを片手に紐解いてみましょう。

【参考図書】

- ・ MacDougall, J. (1989) : Theaters of the Body. Norton 氏原寛, 李敏子訳(1996)身体という劇場. 創元社
- ・ Briggs, S. et al. (ed.) (2008) : Relating to Self-harm and Suicide. Routledge (岩崎学術出版社より刊行予定)

第9回 木部則雄先生 (白百合女子大学)

---

発達障害は生得的なものであり、その問題は精神分析的には早期母子関係にある。これはクラインとアナナ・フロイトの大論争時に、ハイマンが語った投影・摂取によるパーソナリティの基盤ができることに関連している。この後、ビオンはこれを展開して、コンティナーのが概念として結実した。本講義では、ASD、ADHDの早期対象関係の支障に関して論じ、発達障害の精神分析的アプローチの困難さについて明確にする。

【参考図書】

- ・ 木部則雄 (2015) : 発達障害のこころの発達. 白百合女子大学 発達臨床センター紀要 第18号 3-16.

第10回 松木邦裕先生 (日本精神分析協会 個人分析オフィス)

---

本年度は「精神分析と精神医学、そして他領域との交差」という年間テーマで各精神疾患の理解を深める企画です。私は精神疾患へのサイコセラピーの目的と有用性を多面的に紹介し、そこで必要とされる治療者-患者関係での倫理にも触れたいと思います。

【参考図書】

- ・ ケースメント (1991) : 患者から学ぶ. 岩崎学術出版社

## お申込み詳細

対 象：精神分析、精神分析的な精神療法・心理療法に関心をお持ちの医師（精神科医、心療内科医、小児科医など）、心理職（臨床心理士、公認心理師）及び、心理臨床を学んでいる大学院生で守秘義務を遵守できる方

\*本セミナーは、公益社団法人日本臨床心理士資格認定協会が定める臨床心理士資格の更新ポイント（定例型研修会、4ポイント）に申請されています。

開催時間：2024年9月22日（日）～2025年7月20日（日）

系統講義 10:00～12:30

開催場所：オンライン

\*午後の症例検討会にご参加の方に限り、講義を午後の会場（エル大阪）にてご視聴いただくことが可能です。但し会場では資料配布はありませんので、各自資料をプリントアウトしてご持参ください。

\*運営委員が講師を務める回についてはエル大阪からの配信となりますので、午後の症例検討会にご参加で午前から会場に来られる方は、対面での講義となります。

定 員：75名

申込方法：大阪精神分析セミナーホームページからお申込みください

申込期限：2024年8月末日

開催後も参加申込みを受け付けています。但し、初回に参加をご希望の方は、9月15日（日）までにお申し込み下さい。

参加費：35,000円

一括全納でお振込みいただきます。振込先はお申し込み後にご連絡いたします。

2024 年度  
**第 27 期大阪精神分析セミナー【症例検討】のご案内**  
— 精神療法家・心理療法家のためのセミナー —

当セミナーでは理論と臨床の両方を学ぶことが重要と考え、コロナ禍までは午前講義、午後症例検討会を実施してきましたが、コロナ禍以降、症例検討会の開催を見合わせざるを得ない状況が続いていました。検討を重ねた結果、2024 年度は、午前講義は引き続きオンラインにて行い、午後の症例検討会は現地開催というスタイルで実施を試みることにしました。

そして、症例検討会の形式も変更します。運営委員が助言者およびファシリテーターを担当し、症例についても、「構造化された精神分析的な心理療法の症例」に限定せず、より幅広いケースを対象とする予定です。少人数で気兼ねなく意見を出し合う自由な雰囲気の中で、症例から多くを学んでいくことを目指したいと思いますので、みなさまどうぞお参加ください。

2024 年 5 月吉日

主 催：大阪精神療法・心理療法研究会  
代 表：横井公一  
運営委員：片山貴美子・川野由子・宿谷仁美  
清野百合・増尾徳行  
運営顧問：大矢 大・鈴木千枝子・館 直彦  
手塚千恵子

お問い合わせ：大阪精神分析セミナー 事務局

osaka.psy.an.seminar@gmail.com

受講申し込み：<https://www.oskps.com>



ホームページ

## 2024年度 第27期 【症例検討】詳細

### 症例検討会

日 程		助言者	日 程		助言者
第1回	9月22日	宿谷仁美	第6回	3月23日	増尾徳行
第2回	10月27日	片山貴美子	第7回	4月20日	片山貴美子
第3回	12月8日	川野由子	第8回	5月18日	宿谷仁美
第4回	1月21日	清野百合	第9回	6月22日	清野百合
第5回	2月23日	川野由子	第10回	7月20日	増尾徳行

代表：横井公一先生は原則として毎回出席する予定です。

### お申込み詳細

対 象：精神分析、精神分析的な精神療法・心理療法に関心をお持ちの医師（精神科医、心療内科医、小児科医など）、心理職（臨床心理士、公認心理師）及び、心理臨床を学んでいる大学院生で守秘義務を遵守できる方

開催時間：2024年9月22日（日）～2025年7月20日（日）

事例検討 13:30～16:00

開催場所：エルおおさか（大阪市中央区）（<https://www.l-osaka.or.jp/>）

- ・午前の系統講義にもご参加される方は、講義の時間から会場を開放していますので、会場にて講義を視聴なさることも可能です。その場合、会場での資料配布はございませんので、各自資料をプリントアウトしてご持参ください。
- ・午前の講師が来場する場合には、会場からのハイブリッド開催となります。
- ・ご自宅で講義をご視聴後、会場にお越しいただいてももちろん構いません。

定 員：10名（最少催行人員8名）

- ・症例を提示できる方に参加を限らせていただきます。
- ・但し、症例は、これまでの「構造化された精神分析的な心理療法の症例」に限定しません。より多様な構造で実施している症例でも構いません。

例）隔週やそれ以下の頻度のケース、一回30分で実施しているケース、親子並行面接の親面接など

申込方法：大阪精神分析セミナーホームページからお申込みください。

申込期限：2024年8月末日

参加費：35,000円

一括全納でお振込みいただきます。振込先はお申し込み後にご連絡いたします。

ご留意いただく点

- ・運営委員が助言者およびファシリテーターを担当します。
- ・ご発表いただく回はこちらで割り振らせていただきます。ご都合の悪い月があれば事前にお知らせください。
- ・臨床心理士更新の要件に含まれる定例型研修会参加 4 ポイントを申請可能です。
- ・日本精神分析学会の学会認定研修グループ（症例・事例検討会）の条件は満たしませんのでご注意ください。

---

臨床現場で悩んでいる症例を提供していただき、分析的な視点から皆で考える場としたいと思います。そのため、毎週・一回 45 分以上という設定の枠組みを満たさないケースも歓迎いたします。どうぞ参加をご検討ください。